

## 松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第6回）開催概要

日 時	平成 30 年 2 月 1 日（木） 13：30～14：30
場 所	松戸市役所 新館 5 階 市民サロン
出席者 (敬称略)	影山貴大、小林邦博、富永尚次、中臺雅樹、野中範郎、眞壁哲夫 (欠席：秋田典子、高山健太郎)
事務局	松戸市総合政策部まつど創生課

### 1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

### 2 「懇談（松戸市総合戦略等の検証について）」

- 事務局から説明
  - ・ 最新データで見る松戸市の人口動向（資料 1）
  - ・ 総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値（資料 2）
- 検証結果（出席者の評価及び意見）

- ・ 全体的に見て各 KPI の数値は、悪化している項目はほぼ無く、各々上昇しており、悪くない。
- ・ 人口増については、要因は様々あるだろうが、微増であっても減っているよりは良い。
- ・ 人口増に関しては、追い風が吹いている。社会インフラ等が整い、且つ、今回の「共働き子育てしやすい街ランキング」で「全国編 1 位」であったということが拍車をかけ、非常に良い形で追い風に乗ることができているのではないか。その結果として、今後も人口増に繋がっていくのではないか。
- ・ 「地の利を得て」ということや「子育て対策が進んで」ということもあり、人口が増えるという流れができてきて、大変喜ばしい。
- ・ 松戸市は、70 歳代の流入が多いイメージがあったが、生産年齢人口、特に 10 歳代、20 歳代の年齢の若者が流入してきていることが、特にキーになってくる。
- ・ 松戸市が発展していくうえでは、伊勢丹撤退の話然りであるが、雇用創出や昼間人口を増加させることについて、今後、考えていく必要があり、注力していかねばならない分野だと思う。

- ・ 人口増となり、働く世代が増えてきているということは、追い風とともに一定の方向でそれなりの成果が出てきていると思う。やはり、その次のステップとして、何らかの対策を施さねばならないのではないか。
  - ・ 人口に関しては、プロモーション等を上手く実施していけば増えていく。また、人を呼ぶことができる要素も非常にあると思う。
  - ・ 人については、増える要素しかないと思っている。
- 
- ・ プロモーション次第で、人口はより増加していくと考えている。
  - ・ 人口を更に増加させるためにどのような活動をしていかなければならないかと考えると、やはり「共働き子育てしやすい街ランキング全国編1位」で「待機児童ゼロ」ということは最大限にアピールできる部分であるため、それらを維持させる活動は実施しなければならないと考える。
  - ・ 東京や上野は20分台で通勤ができる非常に近い場所であるため、そのことをどのようにアピールしていくかが大事だと思う。
  - ・ 松戸市というブランドを、どのような形でブランディングしていき、ブラッシュアップしていくかということが、大事だと思う。そのようなことに関わる事業の予算化や、どのような形でお金を使ってアピールしていくかということが、非常に大事だと思う。
  - ・ シティプロモーションでは、「共働き子育てしやすい街ランキング全国編1位」のほかに、「昨年秋に便数が増えた上野東京ラインによる東京などへの近さ」、「東京都から川を隔ててこちら側であれば一戸建住宅も安いこと」という「立地的優位性」がある。また、「小児医療」もある。新たな市立病院が昨年12月にオープンしたが、小児医療はかなりのトップ水準である。当然、他に民間の良い病院も複数あるので、それらの病院と連携を取り、医療に、特に小児医療に注力している。
  - ・ 「通勤、通学をするのに近くて便利」、「松戸に住めば保育園に入ることができる」ということなどのシティプロモーションを徹底して実施し、人口を増やそうとした結果として、ようやく僅かだがプラスになった。
  - ・ これまでの人口増に至るまでのシティプロモーションを今後も実施し続けることにより、過去は松戸に向かっていたが現在は流山などに向かっている人口移動の方向が、全て松戸に向かってくるようになるだろうと考えている。この5年程が正念場である。
- 
- ・ 就業ということや新たな起業家の方たちに対し、どのように繋げるかという支援が重要となってくる。前回の検証時にも取り上げられた「フューチャーセンター」などが、どのように機能してくるか、ということが非常に重要となってくる。
  - ・ 事業所支援の部分も、重要なキーとなってくる部分である。
  - ・ 事業所に対する相談事業としては、経営、法律、税務及び労務の各相談

で、月間約十数件ある。また、確定申告等の相談も実施しているため、ここに関連する KPI の数値は確保できるのではないかと。

- 創業、第二創業及び事業承継に関わる支援が重要である。事業所数が減ってしまうと「街に人が集まらない」ということが的確に出てしまう。
- 伊勢丹の撤退では、従業員数で約 300~400 人が松戸からいなくなるということになってしまう。それは、従業員たちが松戸市から転出してしまいうというということにも繋がりがかねない。
- 行政と上手く取り組みながら、創業セミナー等を協力的に展開していきたい。
- 前回の地方創生交付金事業の検証時にも取り上げられた「コンテンツ産業振興事業」では、コンテンツ産業の振興に市としても注力して地方創生推進交付金という国庫補助を受けつつ、ビックサイトに出店をするなどし、松戸市内でコンテンツ産業の分野から創業に結びつけるということに、それなりの結果が出てきている。
- 経済活性化の問題があると聞き、そのためには事業所を増やさねばということもある。松戸市には、「戸定邸」という他の市町村には無い文化的資産があるため、それをコアにして循環的に色々なものが発展していくということが良いと考える。つまり、そこを見に来る人がいる、そして、見に来る人に土産等々を作り提供する事業所ができ、また、駅から徒歩で歩く途中で食事をしたいということがあればレストラン等々食事をする場所というものもできる。そして、その食事については、工夫を凝らして昔の食事を復活させるということなど、そのような様々な部分で、全てが循環的に互いに補完し合いながら、事業者が次々と展開していくイメージで発展すれば、最良だろうと思っている。
- 「戸定邸」という貴重な財産を是非活用していきたい、活用していただきたい。
- 「戸定邸」の話に関連するが、「明治 150 年」ということでイベントが生まれようとしているところがある。「徳川」という良い素材があるため、そのイベントの一角として、一つの発信という形で何かできればと思っている。
- 「戸定邸」のプロモーションとして、ストーリー性を持たせて「明治 150 年」のなかで「戸定邸」を売り込むということも、ありかと思った。「コンテンツ産業」のなかでも、松戸として売り込めたら良い。
- 「戸定邸」は、現在、駐車場なども整備しており、人が集まることのできる形になってきていると思っている。非常に良い方向性で動いていると思う。そのような動きは歓迎である。
- 経済活性化ということで、松戸駅前でも様々なイベントを実施することに

より、伊勢丹撤退による経済的損失を補填できたら良い。

- 様々なところでイベントという形で賑わしをしてもらえれば、嬉しい。手伝えることができるならば、そこで協力をしたい。
- 経済活性化のためのイベント企画も、企画とともに宣伝、プロモーションが非常に貴重で大切な分野となってくると思われるので、しっかりとお願いしたい。
- 伊勢丹が無くなってしまうことは、かなりの打撃であると思う一方で、逆にチャンスではないか、という考えもある。中山間地域などでもイベントが多く開催されているが、「イベントを開催したその時には人が来たが後に繋がらなかった」といった事態が多々発生している、ということが耳に入っている。イベントを開催していくのであれば、「ただ単に来てもらう」という薄い関係人口を求めるのではなく、そのイベントのなかで如何に松戸市民との繋がりを捻出していか、どのように人との交わりを捻出していか、ということがキーになると思う。勿論、来ていただき買っていただくのみでも、その一時の経済効果はあると思うが、それ以上に、松戸市に魅力を持ってもらえるようなイベントの仕掛けなどができれば、なお良い。
- 人との繋がりの部分で、「繋がりの力は人の健康などにも関係してくる」といったことは、大学などとの連携事業の研究事業で大分わかってきていることかとは思ふ。
- 創業支援に関しても、金銭的な支援やただ単に定住させるということだけではなく、起業創業、若い人たちが新しい土地に来て新しい生業を起こすというときに一番必要な、「人との繋がり」をつくることへの支援という人的支援が、実は定着するまでにかかなり重要であるということが、地域おこし協力隊の過去の事例からもかなり学ばれてきている。コーディネーターのような動きができる人や、地域のキーパーソンと繋げることができる人など、そのような相乗効果を生み出すことができる人材の育成なども、今後必要になってくるのではないかと感じた。
- 企業誘致ということで考えると、企業が立地するための場所が無い。松戸駅前にも、移転したくとも移転できない。オフィスビル自体が少なく、広さも確保できていない。その部分の開発も必要と考えている。
- もう一つくらい工業団地があってもいいかなとも考えられる。オフィスビルに関しては、やはり開発せねばならないと考える。
- 東京外かく環状道路の松戸インターチェンジが近日供用開始となるので、物流施設等を含めて矢切などの辺りを如何に使うか考えねばならない。

- ・ 容積率を増やすことも検討が必要と考えている。松戸駅周辺地域が国の「都市再生緊急整備地域の候補」に指定されたことで、さらにメリットが出てくるだろう。
- ・ 都市計画自体、調整区域等の見直しも状況を見ながら検討が必要と考えている。
- ・ 観光の方面では、船橋と市川と松戸の観光協会と組んでバスツアーをやらせようとなっていると新聞で読んだ。当然、その観光コースには「戸定邸」も入っていた。初期のツアーはもう予約で満員との話もある。現在、そのような流れもあるため、観光の方も段々とそのように増えていくのではないかと思う。
- ・ 松戸の観光協会は、昨年法人化され、現在、活発に動いている。
- ・ 人が住む要素は、非常にポテンシャルがあり、また、交流人口として外から人を呼ぶ要素も松戸市は非常に多く持っていると思う。先ほどの「戸定邸」然り、「21世紀の森と広場」も然り、東京近郊でこれだけの自然が残っている場所はなかなか無いため、人を呼ぶことができる場所であると思う。KPIでも、観光スポットの観光客数が平成25年と比べて若干増えているという形だが、ここは、さらに伸ばすことができるため、企画とプロモーションに力を入れて是非ともお願いしたいと思っている。
- ・ 各界の方々と連携して一緒に行っていきたい。よろしくお願ひしたい。

### 3 「事務局からの報告」

#### ○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

### 4 「閉会」

以上